

「教師力養成講座」が 授業として履修できるようになります！

教師教育開発センターでは、教職相談室が中心となって年間5～7回の「教師力養成講座」を開催してきました。この講座は、教職を目指す学生の皆さんに学校現場の現状と優れた実践を紹介し、教師という仕事の素晴らしさを伝えるとともに、実践的指導力の向上を図ることをねらいに実施しています。講座では、優れた実践を進めている教師等に講師を依頼し、学校で行われている取組の概要やその教育理念を話していただき、受講者のグループワークで考えを深めています。これまでに56回の講座を実施してきました。毎回ほとんどの受講者から「教師を目指す上で役立つ」という肯定的な意見をいただいています。

今年度は、すでに5回実施しました。

- ①「授業これだけは！」
- ②「特別の教科道徳の授業づくり」
- ③「子ども理解を基盤にした学級づくり」
- ④「教師になるための根っこ話」
- ⑤「子どもを理解し、子どもを導く」

これまでの講座は、各回ごとに開催する時間や曜日が異なっていました。

参加できなかった学生から「情報が入らなかった」「他の予定と重なった」などの声がありました。

そこで、平成30年度から曜日と時間を固定して授業として開催することになりました。授業として履修すれば、「1単位」が取得できます。欠席の場合には、相談室でDVDを使った補講を予定しています。また、今までのように、授業としては履修できない学生も参加できるように措置も考えていきます。

授業概要は、次のとおりです。

【授業科目】教師力養成演習
(学校教育の現代的課題)

【学 期】年間随時開講
(曜日と時間枠は固定)

【科目区分】高年次教養科目

【対象学生】3・4年生

【授業計画】年間7回の外部講師を招いた講座を実施する



今年度には、これから2回の教師力養成講座を予定しています。

いずれも2時間の講座です。ぜひ積極的に参加してください。

◆第6回講座

日 時：1月24日(水) 14時～
テーマ：「小中の連携について考える」
講 師：岡山市立足守中学校 校長
藤原 孝憲 先生
場 所：教育学部講義棟5208教室

◆第7回講座

日 時：1月31日(水) 14時～
テーマ：「アクティブ・ラーニングを実現させるために」
講 師：岡山市立岡山中央中学校 指導教諭
稲田 智恵 先生
場 所：教育学部講義棟5208教室

【文責：武藤幹夫】

CST基幹講座(12/3、12/10実施)

CST基幹講座として、12/10に「日本文化芸術と科学の関係性を科学しよう-酸化鉄を通して-」を実施しました。今回は、自然科学研究科の高田潤先生と久能樹先生に酸化鉄に関する研究のお話をして頂きました。高校生が参加するGSCOとの合同講座です。焼物等の日本文化芸術と酸化鉄



の科学とのつながりも知ることのできる大変興味深い講座でした。また、酸化鉄の意外

な可能性も知ることができました。頭を柔らかくすることで理科の授業をより充実させるヒントを得ることができ、理科室だけで閉じない理科を伝えることのできるCST養成講座に適した講座でした。今回の講座には30名の学生CST生が参加しました。

また、12/3には倉敷科学センターで科学教育普及について学び、プラネタリウムの舞台裏や展示の工夫について半日かけてリサーチしました。科学館と学校の連携のヒントを得ることができました。

【文責：稲田佳彦】

まずは体験！スクールボランティア「はやし塾学習支援ボランティア」への参加

このイベントは、岡山大学スクールボランティアビューローの学生スタッフが企画し、スクールボランティアに関心がある全学部の学生に呼びかけて、10月14日(土)に実施したものです。これは、スクールボランティアを始めたいけれど、どうしていいかわからないといった学生に、スクールボランティアとはどのようなものなのか、まずは体験してもらおうということで企画した体験型イベントです。当日は4学部から10名の学生と6名のスタッフ、それに教師教育開発センターから4名の教員が参加しました。

9時から10時半まで、主にプリントや宿題をしている小学生に分からない部分の指導や丸付けなどを行いました。また、学習前にスタディパスポートと呼ばれる記録ノートに各児童がその日の勉強



の目標を記入する際の支援や学習後の振り返りの記述内容についての確認などを行いました。子供達が帰った後、4～5人のグループに分かれて、グループで交流会を行いました。ここでは、初めてボランティアを体験してみたい感想を述べたり、新しくボランティアを始めるときに不安に思うこと等について意見を出し合ったりしました。アンケートには、とても貴重な体験ができ、他のところでも行いたいし、友達にも広めたいといった意見が多く見られました。

【文責：近藤弘行】

教員リレーエッセイ「教育への夢と希望を」

教師教育開発部門 久戸瀬 有 准教授

平成29年4月1日の教育公務員特例法の一部改正にと
もない、岡山県・岡山市でも教員等育成指標が定められ
ました。教員等のキャリアステージに応じて求める資質
能力を示しており、その入口となる養成段階からの人材
育成についても述べられています。教師教育開発部門が
担っている、全学教職コア・カリキュラムの開発や研究、
教育実習の企画運営や研究などが、岡山県・岡山市をは
じめとした各自自治体が求める採用時の指標につながるも
のでなければなりません。それだけではなく、本学教職
課程を履修する学生のみなさんが、教育現場で活躍でき
るだけのより高い資質能力、教育実践力を身につけてい

くことを考えると、
大学教員として、そ
の使命と責任を強く
感じます。

私はこれまでに学
校現場で16年間教壇
に立ち、たくさんの子
どもたちと関わって
きました。「教育」を、
学校現場の目線からと
らえ、大学での教育
実践に生かすことが、
実務家教員としての
私の使命です。そし
て何より、学生のみな
さんが、育成指標にも
あるように、「教育への
夢と希望をもって」教
育現場へ飛び出して
いける一助となればと
思っています。



合格

<教員採用試験受験記> 長崎県 小学校教諭 合格

教育学部 学校教育教員養成課程 幼児教育コース 椎葉 真由子 さん

「教員採用試験の対策をしたいけど、何をすればいいの
かわからない。」これが私の初めにもった気持ちです。

私は幼児教育コースに所属しながら、小学校教員を目
指していました。そのため、スタートから焦りや不安が
ありました。しかし、とにかく行動に移すことです！勉
強と相談室通いを毎日続けました。問題集は2冊しか購
入せず、集中的に繰り返し勉強しました。岡山市と長崎

県の併願だったので、傾向の違うどちらの2次試験対策
もできるよう小論文や面接の練習も同時にしました。3
年間でできた友達に声をかけ、模擬授業や体育実技の対
策もしました。とにかく試験が終わるまで無我夢中でし
た。努力した時間は裏切りません。何をしたらいいのかわ
からない人はとにかく行動に移すこと。相談室の先生
とお話すると不思議とやる気が出ます。行動すれば今
やるべきことが見えてきますよ。踏み出す一歩を応援しています。

合格

<教員採用試験受験記> 香川県 養護教諭 合格

教育学部 養護教諭養成課程 田中 莉絵 さん

「どんな勉強をすればいいのだろう」「どれだけ勉強
すればいいのだろう」と、不安な日々を過ごされている
と思います。でも、私もそんな思いをする一人でした。

私は、香川県の養護教諭を志願しました。教職相談室
の先生方や、同じ学科の先輩から話を聞き情報を集め、
まずは過去問から始め、香川県の傾向を掴みました。傾
向を掴むことで、同じ問題が数年おきに出題されていた

り、毎年必ず出る問題があったりするので過去問を完璧
に解けるようにしました。また、採用試験の勉強は現場
で必要な知識や力を問われるので、実践的な問題にも取
り組むと良いと思います。

採用試験の勉強や面接練習は決して容易くはありません
でしたが、教師となってからの自分の考えや信念を持
ついい機会となります。残りの勉強が充実できるよう
応援しています。

母校訪問事後指導実施

全学教職課程履修者を対象とした
母校訪問事後指導が10月に実施さ
れ、この事後指導をもって今年度
の母校訪問の全ての内容を終えるこ
うことができました。

母校訪問は、全学教職課程履修者
を対象に本学が提供する独自のプロ
グラムです。5月の全学教職オリエン
テーションの参加にはじまり、母校
訪問計画書の作成、母校への訪問依
頼の電話、訪問後の報告書の作成、
そして事後指導への参加、と多くの
ことが学生には課せられており、皆
さん熱心に取り組んでいました。



事後指導当日の学生の様子から、
多くのことを学び取ってきているこ
とや充実した経験であったことが窺
えました。学生の声をいくつか紹介
します。「同じ授業といっても教師
によって授業の雰囲気の違い、生徒
やクラスによって授業のやり方を変
えていることが分かった。」「生徒
一人一人の個性を尊重していく事が
大事だと分かった。一方で限界もあ
り、難しさも感じた。」「教師は生
徒のことを考え、授業準備をしてい
たことが分かったが、ただ計画をし
て計画通り授業を進めるのではな

く、生徒の様子や反応に応じて授業
を進めていたことが分かった。”

“実習生の授業をたまたま見るこ
うできたが、知識の量も豊富であ
り、教え方も上手だった。自分も専
門分野の勉強をこれからもっとし
ていきたいと思った。”などたく
さんの声を聞くことができました。

学生の皆さんの今後のますますの
成長を願っています。最後になりま
したが、関係の皆様はこの場をお借
りして心よりお礼申し上げます。今
後ともどうぞよろしく願います。
【文責：三島知剛】



教員採用試験のツボ その二十「まずは教職相談室へ」

連載

あなたが志望する自治体の教員採用試験では、どのよ
うなことが重視されているのか知っていますか。

先日、教職相談室を初めて訪れた人が、先輩の残して
くれた「受験体験記」を見て、大変あわてていました。
教職相談室には、いろいろな自治体の教員採用試験を受
験した先輩たちが、「個人面接」の雰囲気や質問内容、
「模擬授業」の課題や試験官の様子など、試験について
詳しく具体的に書き残してくれた受験体験記のファイル
があります。彼は、個人面接でボランティア経験につ
いて次々と質問されている記述を見てあわてたのです。そ
の後、ボランティア登録をしてがんばっています。

また、小学校を志望している別の人は、「ピアノが苦
手だけれど、一つくらいできなくても他でカバーすれば
大丈夫でしょうか。」と言いました。かつて彼と同じ自
治体を受験した先輩の中に、音楽実技以外は高得点だ
ったのに不合格になってしまった人がいることを伝えると
驚き、さっそくピアノの練習を始めました。

「『今』なら間に合う、『今』しかできないこと」を
見落としていませんか。教職相談室は、教師の道を手
にしたいあなたの「今」をサポートします。まずは教職相
談室で様々な情報を得て、受験までの道のりを見通すこ
とから始めませんか。【文責：河内智美】

